

令和元年における旭川市の人口動態について

1 全体概要

表1. 旭川市の年間(1~12月)人口動態

(単位：人)

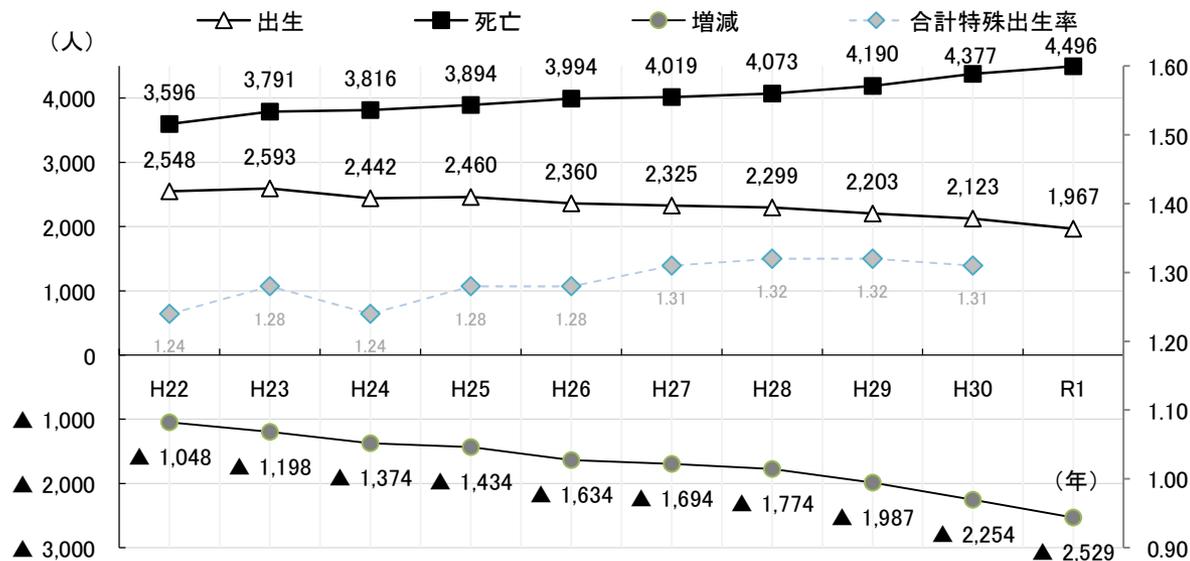
| | 1月1日 現在人口 | 自然動態 | | | 社会動態 | | | 全体 増減 |
|---------|--------------|-------|-------|---------|--------|--------|-------|----------|
| | | 出生 | 死亡 | 計 | 転入 | 転出 | 計 | |
| 平成29年 | 340,211 | 2,203 | 4,190 | ▲ 1,987 | 11,081 | 11,731 | ▲ 650 | ▲ 2,637 |
| 平成30年 | 337,392 | 2,123 | 4,377 | ▲ 2,254 | 10,862 | 11,427 | ▲ 565 | ▲ 2,819 |
| 令和元年 | 334,070 | 1,967 | 4,496 | ▲ 2,529 | 10,800 | 11,593 | ▲ 793 | ▲ 3,322 |
| R元-H30差 | ▲ 3,322 | ▲ 156 | 119 | ▲ 275 | ▲ 62 | 166 | ▲ 228 | ▲ 503 |

(参照：統計で見る旭川(市HP))

- 平成31年1月～令和元年12月における人口動態は、3,322人の減少で、自然減2,579人、社会減793人
- 自然減は前年比275人拡大、社会減は前年比225人拡大となった。

2 自然増減の推移

図2-1. 旭川市の年間(1~12月)自然増減の過去10年間推移



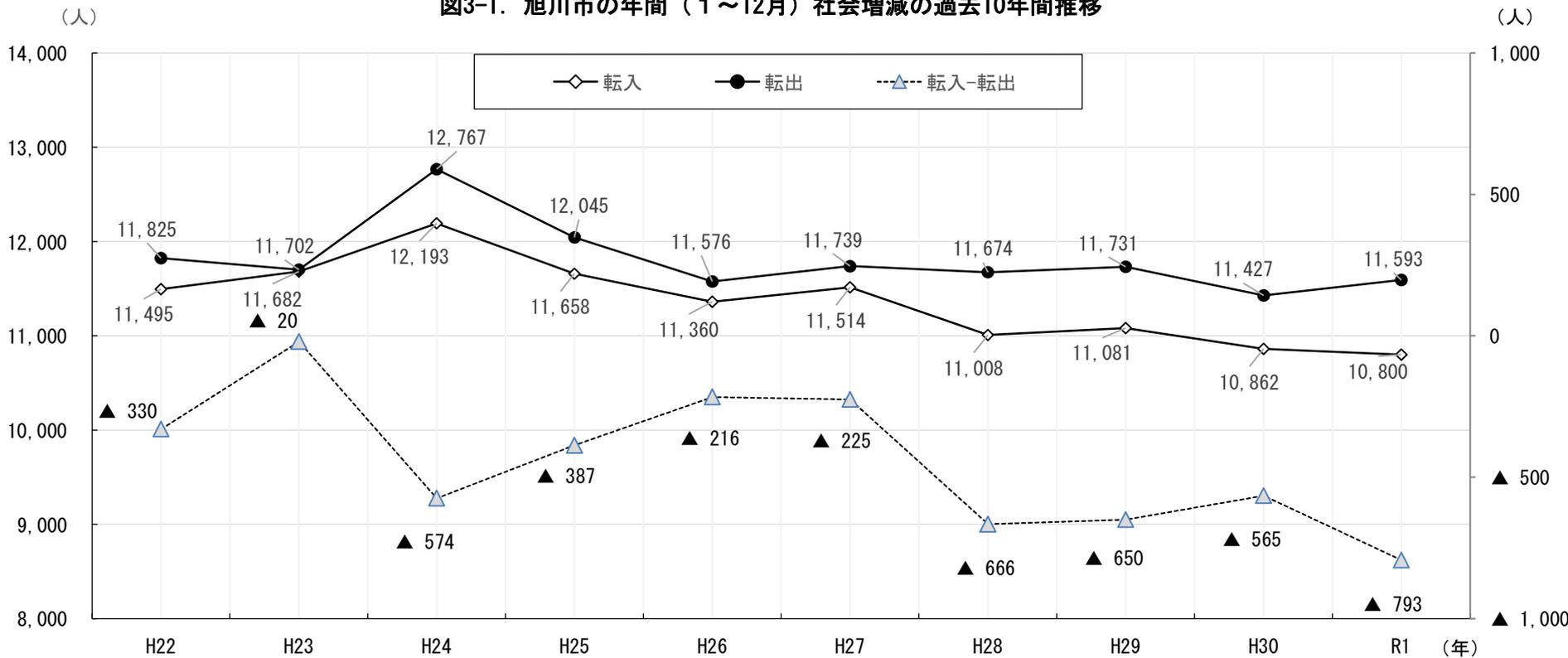
- 死亡数は、増加が続いており、平成30年は前年より119人多い、4,496人となっている。
- 出生数は、平成26年以降、毎年減少を続けており、令和元年は前年より156人少ない、1,967人となっている。

(参照：統計で見る旭川(市HP)ほか)

3 社会増減の状況

(ア) 推移

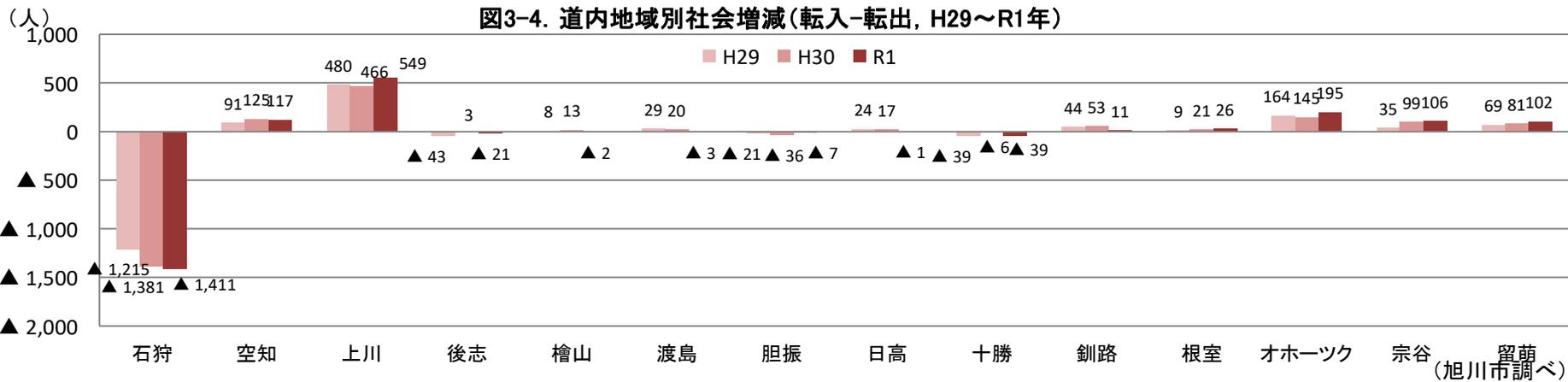
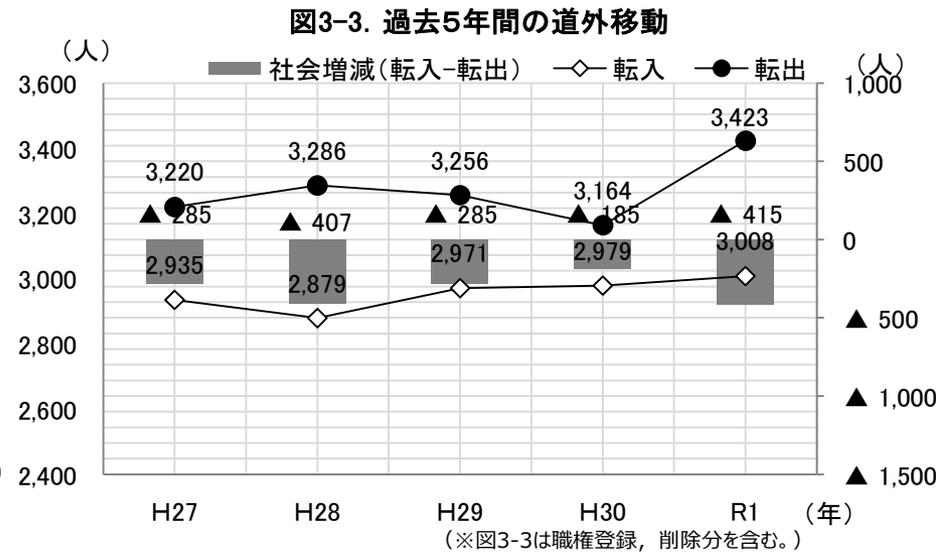
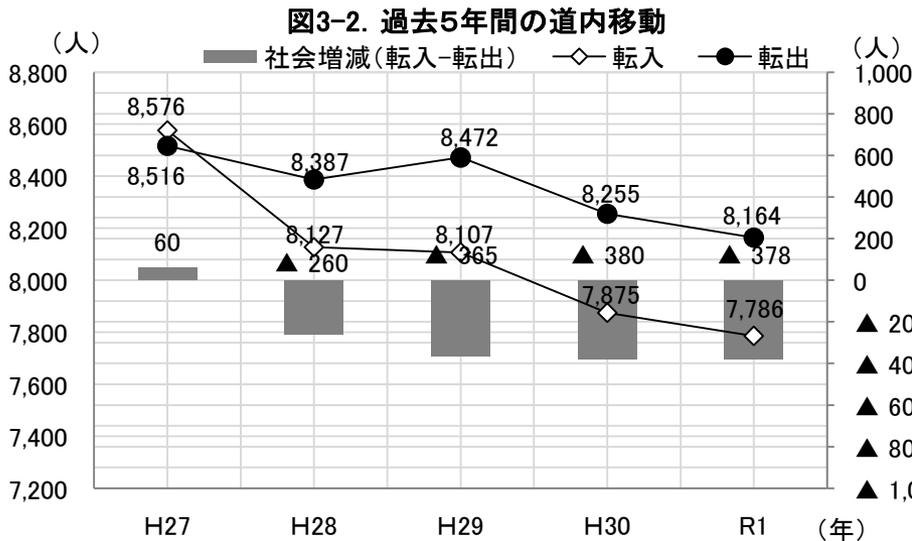
図3-1. 旭川市の年間（1～12月）社会増減の過去10年間推移



(参照:統計で見る旭川(市HP))

- 令和元年の転入者数は、10,800人で前年より62人減少し、過去10年間で最も少ない水準となっている。
- 平成30年の転出者数は、11,593人で前年より166人増加し、過去10年間の平均値（11,808人）とほぼ同水準になっている。
- 結果、社会増減数（転入-転出）は、前年より228人増の793人の転出超過となり、過去10年間で最大となった。

(イ) 地域別転出入状況



【主な特徴：道内の転出，転入者数減少継続，道外への転出者数増加】

- (図3-2) 道内移動における転出入では，転入者数が平成26年以降，6年連続での減少が続いており，令和元年では89人減となっている。また，転出者数も91人減となり，転出超過数は前年より2人減の378人となっている。
- (図3-3) 道外移動における転出入では，転入が前年より29人増，転出が前年より259人の大幅増で，転出超過数は前年より230人多い415人となっている。
- (図3-4) 道内移動の14地域別比較では，石狩地域への転出超過が前年より30人増加し拡大傾向。上川，オホーツク，宗谷，留萌，空知地域といった道北，近隣地域からの転入超過が続いている。

(ウ) 男女別転出入状況

図3-5. 男性・移動推移

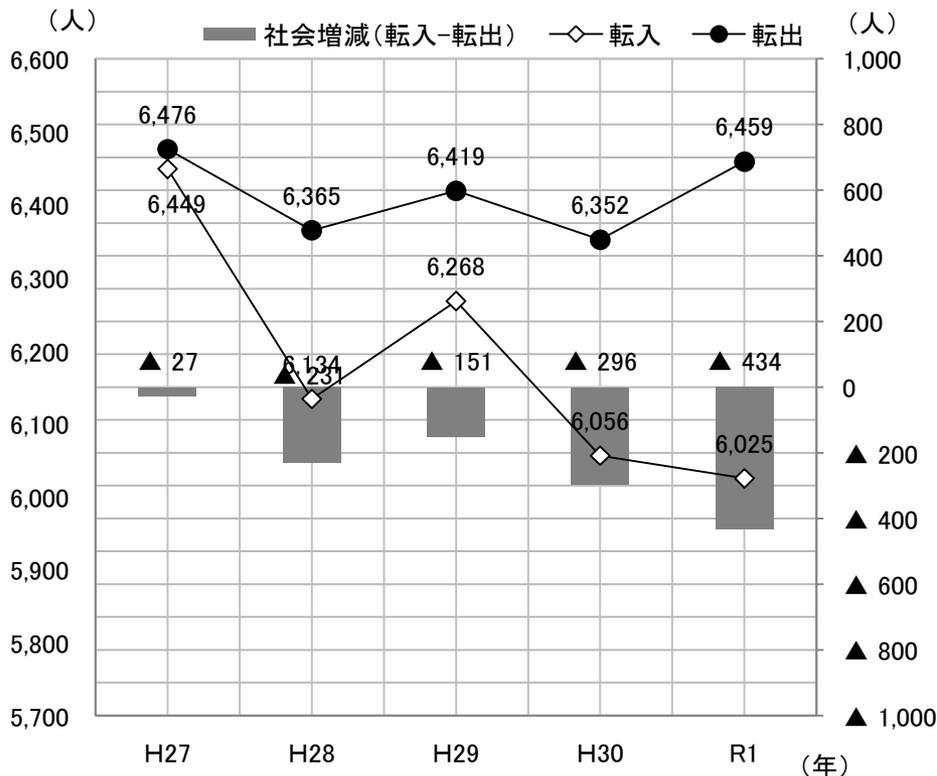
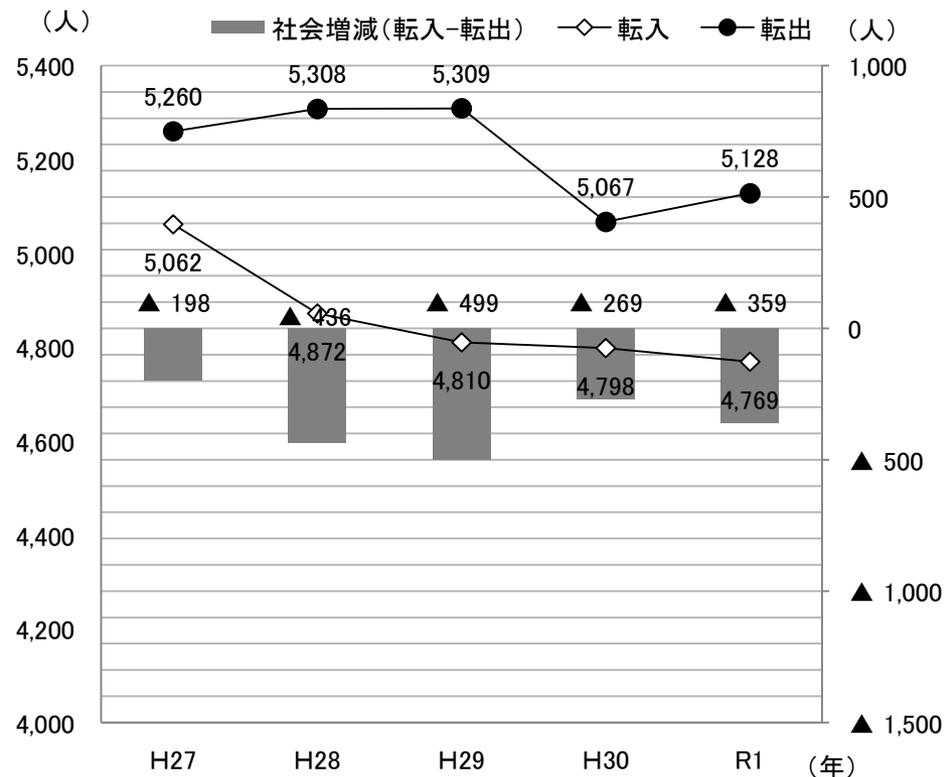


図3-6. 女性・移動推移



【主な特徴：男女とも転入減少，転出増加】

- (図3-5) 男女別の転出入では、男性は転入が前年より31人減少，転出が前年より107人増加し，転出超過数は前年の296人から138増の434人となった。
- (図3-6) 女性では転入の減少が続いており，令和元年も前年より29人減少した。一方，転出は増加に転じて前年より61人増加となり，転出超過数は359人と前年より90人の増加となった。

(工) 年齢区分別転出入状況

図3-7. 年齢区分別(転入-転出)

■ H29 ■ H30 ■ R1

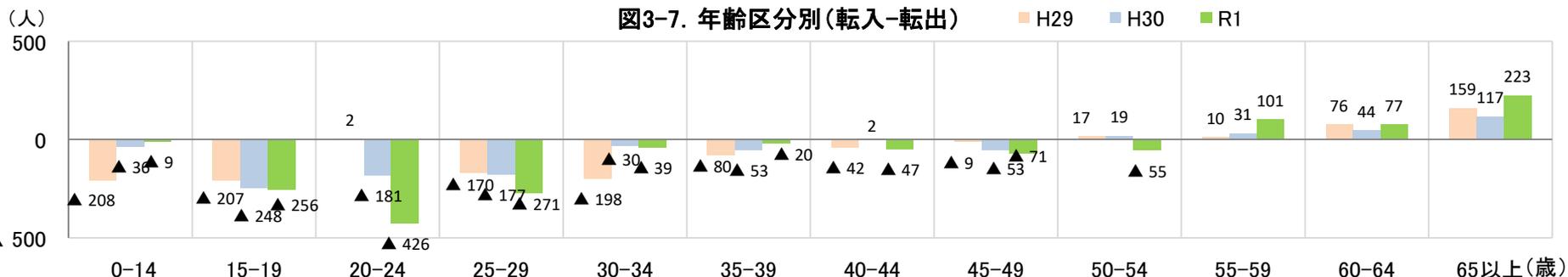


図3-8. 男性・年齢区分別(転入-転出)

■ H29 ■ H30 ■ R1

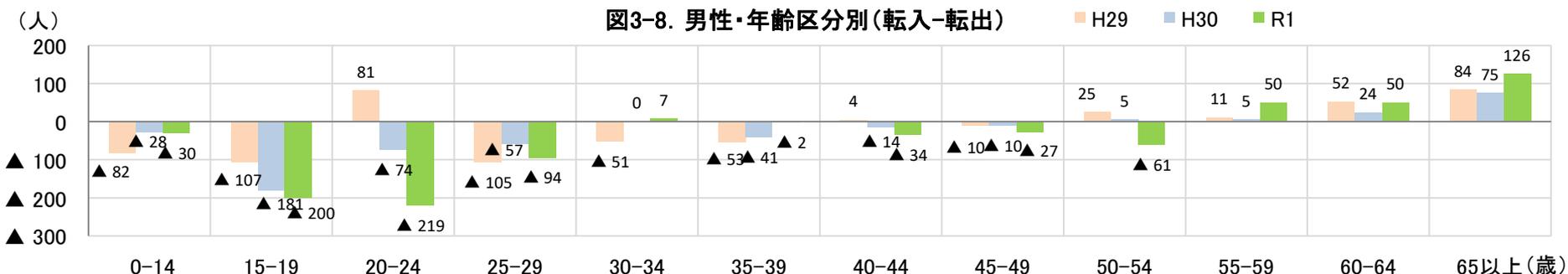
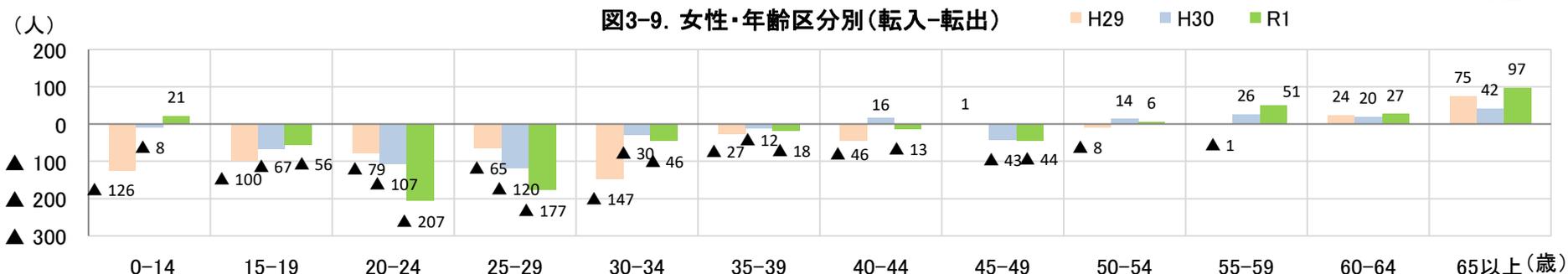


図3-9. 女性・年齢区分別(転入-転出)

■ H29 ■ H30 ■ R1

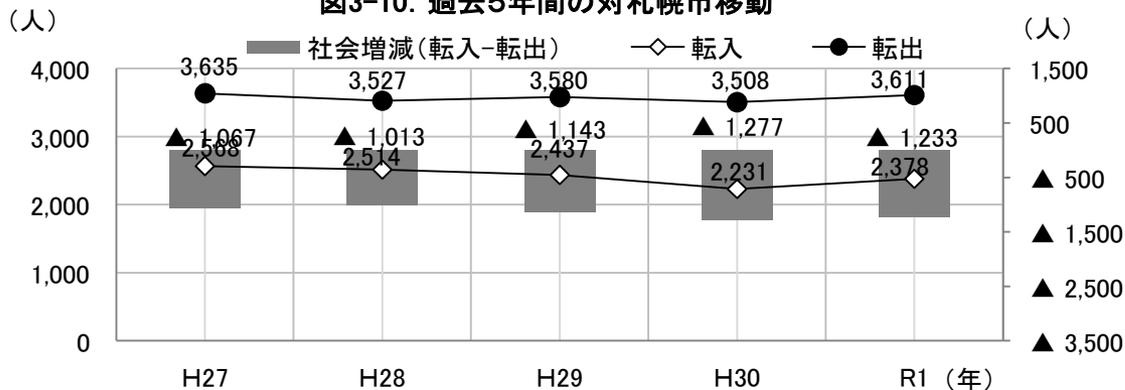


【主な特徴：男女とも20歳代の転出超過数が拡大、65歳以上の転入超過数も拡大】

- (図3-7) 年齢区分別では、前年より20-24歳の転出超過数が大幅に拡大したほか、25-30歳など若年層で転出超過数が拡大した一方、55歳以上の層で転入超過数が拡大した。
- (図3-8) 男性では、20-24歳で前年より145人転出超過が拡大するなど15-29歳の層で転出超過が拡大した。
- (図3-9) 女性でも、20-24歳で前年より100人転出超過が拡大するなど20-29歳の層で転出超過が拡大した。一方、65歳以上で転入超過数が55人増加している。

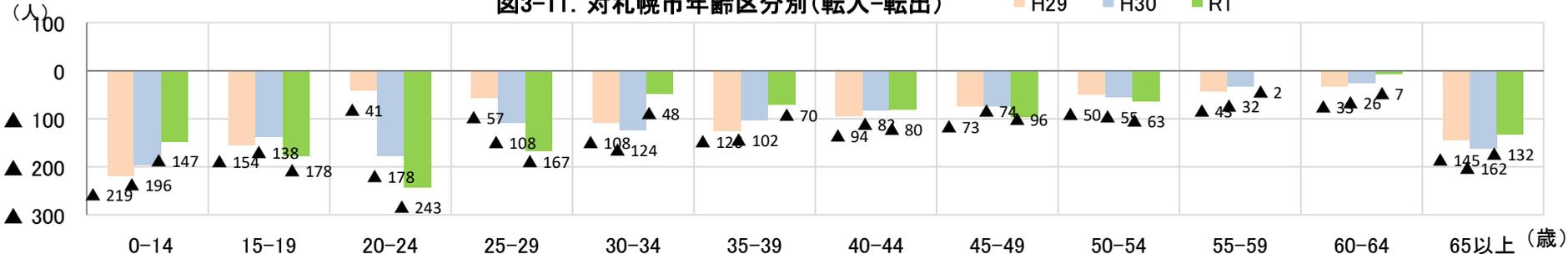
(才) 対札幌市転出入状況

図3-10. 過去5年間の対札幌市移動



(図3-10)
道内移動でも最も転出超過となっている対札幌市との転出入は、前年より転出が103人増加、転入も147人増加した結果、転出超過数は前年より44人少ない1,233人となっている。

図3-11. 対札幌市年齢区分別(転入-転出)



(図3-11) 年齢区分別では、すべての区分で転出超過となっているが、前年と比較して、特に15~29歳で大幅に拡大している。

4 令和元年における人口動態のまとめ

- 自然減と社会減がともに拡大したことで、年間の人口減少数が初めて3千人を超え、3,322人となった。
- 自然減では死亡数が119人増加し、4,500人に迫るとともに、出生数が前年を156人下回ったことで、2千人を下回った。
- 社会減については、全体としては前年より228人拡大(▲565人→▲793人)している。
 - ・道内移動については、転出・転入ともに減少し、転出超過数がほぼ前年並みとなった。
 - ・道外移動については、転出者数が増加した結果、前年の転出超過を前年より大幅に上回り(▲185人→▲415人)、社会減拡大の要因となった。
 - ・年齢階層別では特に15歳~29歳の転出超過が拡大している。